

ポリシーブック2020

～若手農業者の政策提言～



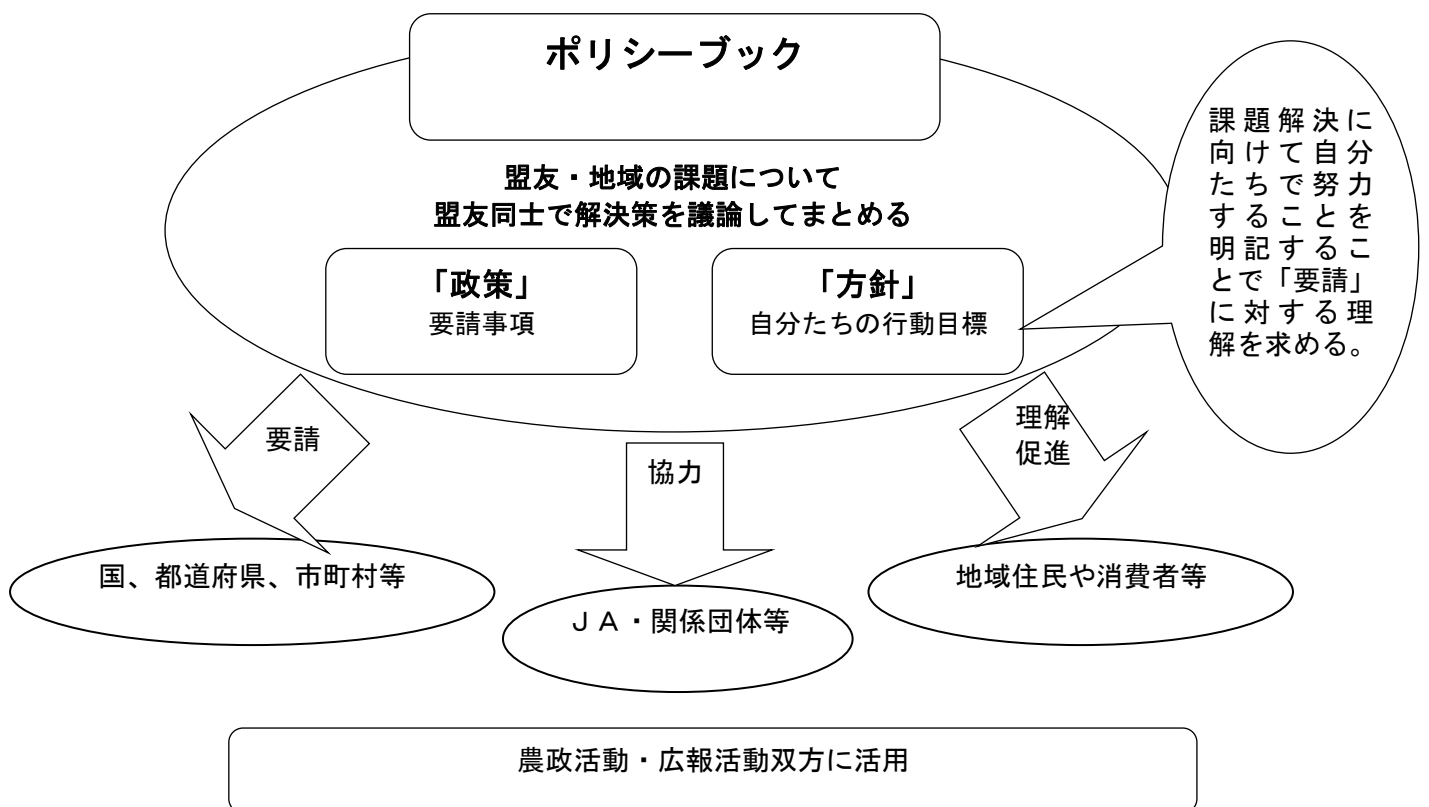
JA YOUTH

JA静岡青壮年連盟

J A 青壮年部「ポリシーブック」とは

J A 青壮年部「ポリシーブック」とは、将来の日本農業を支える立場である青壮年農業者一人ひとりが、営農にかかる課題から農業政策まで幅広い視点で課題意識を持ち、その解決策を自分たちで積上げ・検討する青壮年部活動の根幹を成す取組みである。

盟友一人ひとりが洗い出した個々の農業経営、地域農業の課題等を組織に結集し、自分たちの力で解決策を考え、ポリシーブックという政策提言集を作り上げる。その過程を通じ盟友個々の資質向上を図るとともに組織の活性化につなげ、かつ、行政や関係機関等に対して青壮年部の考え方を主張するツールとして活用していく。



目次

I 課題の概要と解決策

- 1. J Aとともに農業所得を向上する 1
- 2. 農業を将来にわたって継承する 3
- 3. 組織基盤を強化し地域を活性化する 5

II J A 静岡青壮年連盟の概要

- J A 静岡青壮年部活動 3 か年計画「繋匠」Oneteam 未来へ 7
- J A 静岡青壮年連盟とは 10



1. J Aとともに農業所得を向上する

－基本的な考え方－

組織を基盤に、盟友や地域、産地とともに農業経営者として成長し、農業所得の向上を図り地域農業の活性化に努める。

(1) 相互理解を深め、互いに高め合うことで、個々の農業経営力向上を図る

- ①時代に応じた知識や技術の習得、農業経営力向上に向けた取組みを実践する
- ②先進的な農業経営等を学ぶための視察・意見交換会を実施する
- ③多種多様な品目を栽培する産地間、盟友同士の連携（絆）を強めるため作物別に交流する場を設け、産地振興に向けた検討を行う
- ④地上・農業新聞の購読と活用を推進し県内外の優良事例を学ぶ

(2) J A・行政等関係機関との連携強化を図る

- ①J A、県行政・市町をはじめ国行政にいたるまで、地域農業を将来にわたって継承してくため、関係機関に対して責任ある提言を行う
- ②盟友とJ A職員が互いを理解し、高めあうための意見交換・交流を行う
- ③効率的な農業経営の確立にむけ、各種事業の理解と活用に向けた検討・実践を行う

(3) 最新の消費者ニーズをとらえ、農業経営への反映を図る

- ①消費者交流イベント等に参加し消費者と対話することで、ニーズを把握する

【解決策】

○ＪＡ青壮年連盟としての取り組み

- ☐ 知識や技術、経営センスの向上を目指したセミナーの開催(1)－①、(2)－③
- ☐ 農業経営先進事例の視察研修の実施(1)－②
- ☐ 『地上』の活用を通じた農政への理解促進(1)－④
- ☐ 県版ポリシーブックの作成(2)－①
- ☐ 消費者交流イベントの実施(3)－①
- ☐ ＳＮＳを通じた情報発信、情報収集(2)－①

○ＪＡと一体になった取り組み

- ☐ 地域の農業者間で先進事例の視察の実施(1)－①、(2)－③
- ☐ 別の作目を生産する農家間での情報共有(1)－③
- ☐ 農協役職員との対話活動の実施(2)－①、(2)－②
- ☐ 農業協同組合について理解を深める研修の開催(2)－②

○行政に提案・要望すること

- ☐ 活用可能な補助金等に関する情報提供(2)－③
- ☐ 行政と一体となった県内農産物のＰＲ(3)－①

2. 農業を将来にわたって継承する

－基本的な考え方－

J Aや関係機関と連携し農業の持続可能性を高めるとともに、生活を支える食と農の価値を広く消費者に理解してもらうことで、「農」を次世代へ継承していく。

（１）「食と農」・青壮年部活動への共感と、地域農業・次世代の活性化を図る

- ①地域を巻き込んだ食農教育活動や、地域貢献活動の活性化に向け、県内外の優良事例に関する情報共有や女性部との連携を進める

（２）環境変化、自然災害に臨機応変に対応する栽培体系等の事例・情報の収集、体制の構築を図る

- ①急激に変化する自然環境の理解と、変化に対応した栽培体系の模索と先進取組事例について県行政等と共有する
- ②多発する台風や地震等の自然災害に対して、事例研究等を通じて災害に対する意識醸成とマニュアル（体制）策定を検討する

【解決策】

○ＪＡ青壮年連盟としての取り組み

- ☐耕作放棄地の活用方法を組織で共有する（１）－①
- ☐各単組で実施している食農教育活動を共有する（１）－①
- ☐専門家を招いたセミナーの開催（２）－①、（２）－①
- ☐先進地域・該当地域への視察研修の実施（２）－①、（２）－②
- ☐収入保険制度への加入（２）－②

○ＪＡと一体になった取り組み

- ☐青年部女性部が連携して事業を展開する（１）－①
- ☐ＪＡと協力した食農教育活動を展開する（１）－①
- ☐台風情報、台風対策の共有（２）－②
- ☐災害時の迅速な被害調査（２）－②

○行政に提案・要望すること

- ☐ＪＡ青年部で行う食農教育活動を行政と共有し活動に理解を得る（１）－①
- ☐過去の災害事例の紹介（２）－②

3. 組織基盤を強化し地域を活性化する

－基本的な考え方－

活動基盤となる組織の維持・発展に向けて魅力ある組織活動実施し、J A・地域農業の発展に貢献する

(1) 青壮年部活動の意義を、今一度見つめ直して魅力・活力ある青壮年部へとしていく

- ①研修等を通じて J A 運営および地域を牽引するリーダー育成の強化を図る
- ②青壮年部活動の魅力・活動の周知と活動の活性化により新入部員を獲得し、併せて正組合員化を進め、J A 経営に参画する土台をつくる

(2) 各青壮年部の交流による絆づくりと相互研鑽を図る

- ①県域の青壮年部交流イベント等の開催を通じ青壮年部・盟友個々の横のつながりを強め、情報共有を進めることで、互いに高め合い J A・地域の発展を図る

【解決策】

○ＪＡ青壮年連盟としての取り組み

- ☐ 作物別・課題別研修会で地域間の課題の共有を行う(1)－①
- ☐ セミナーを開催し、リーダー育成を進める(1)－①
- ☐ 他地域の視察を行い、振興を深める(2)－①
- ☐ 県域で消費者交流イベントを検討、実施する(2)－①

○ＪＡと一体になった取り組み

- ☐ ＪＡ行事・事業説明会に積極的に参加し、ＪＡに意思を反映していく(1)－①
- ☐ ＪＡとイベントを共同で開催し、協力体制の強化を図る(1)－②
- ☐ 地域の若手農業者の勧誘に向けた就農者の情報提供(1)－②
- ☐ 盟友の正組合員化の促進(1)－②
- ☐ 盟友とＪＡとの交流を行う(2)－①

○行政に提案・要望すること

- ☐ 県内優良事例の紹介(1)－①
- ☐ 意見交換会を実施し関係強化を図る(1)－①
- ☐ 青年部主催の行事の広報活動への協力(2)－①

J A 静岡青壮年連盟次期 3 か年計画

I. 名 称

「^{けいしょう}繋匠」One Team 未来へ

II. 実施年度

令和 2 年～令和 4 年度（2020 年度～2022 年度）

III. 基本的な考え方

J A 青壮年部では、10 年後、20 年後の将来の農業環境を見据え、J A との一層の相互理解を図った上で更なる農業所得向上を図っていくことを主軸に全盟友が一丸となって取り組んでいく。

地域・J A の枠を越えた各 J A 青壮年部組織が横の繋がりを深めるため組織力を発揮し、盟友の所得向上と地域農業振興を図っていく。

青壮年部組織の活動指針である「ポリシーブック」の課題解決の取組みは 3 か年計画の基盤となる。P D C A サイクルを重視した活動の見直しにより発展的な活動を展開していく。

《 10 年後の現実像 》

- 農業所得向上を実現し、生き生きと農業を行っている
～圃場巡回は高級車で！～
- 農業の魅力が広く認知され、就農希望者が大挙している
～なりたい職業ランキングベスト 10 入り！～
- 盟友が青壮年部活動に積極的に参加している
～全盟友が活動参加！～

Ⅳ. 3か年計画の基本目標・重点活動

組織を通じて自分や仲間の営農を向上させるために

基本目標 1. 「J Aとともに農業所得を向上する」

盟友と J Aとの相互理解を深め、ともに農業所得向上・地域農業の活性化に努める

基本目標 2. 「農業を将来にわたって継承する」

我々青壮年部の誇りと生命産業である農業を将来へ繋ぐ

基本目標 3. 「組織基盤を強化し地域を活性化する」

活動基盤となる組織の活性化と次代のリーダーの育成に向けて魅力ある組織活動を展開することで、J A・地域農業の発展に貢献する

基本目標 1 J Aとともに農業所得を向上する

組織を基盤に、盟友や地域、産地とともに農業経営者として成長し、農業所得の向上を図り地域農業の活性化に努める

(1) 相互理解を深め、互いに高め合うことで、個々の農業経営力向上を図る

- ①時代に応じた知識や技術の習得、農業経営力向上に向けた取組みを実践する
- ②先進的な農業経営等を学ぶための視察・意見交換会を実施する
- ③多種多様な品目を栽培する産地間、盟友同士の連携（絆）を強めるため作物別に交流する場を設け、産地振興に向けた検討を行う
- ④地上・農業新聞の購読と活用を推進し県内外の優良事例を学ぶ

(2) J A・行政等関係機関との連携強化を図る

- ①J A、県行政・市町をはじめ国行政にいたるまで、地域農業を将来にわたって継承してくため、関係機関に対して責任ある提言を行う
- ②盟友と J A職員が互いを理解し、高めあうための意見交換・交流を行う
- ③効率的な農業経営の確立にむけ、各種事業の理解と活用に向けた検討・実践を行う

(3) 最新の消費者ニーズをとらえ、農業経営への反映を図る

- ①消費者交流イベント等に参加し消費者と対話することで、ニーズを把握する

基本目標２ 農業を将来にわたって継承する

J Aや関係機関と連携し農業の持続可能性を高めるとともに、生活を支える食と農の価値を広く消費者に理解してもらうことで、「農」を次世代へ継承していく

（１）「食と農」・青壮年部活動への共感と、地域農業・次世代の活性化を図る

①地域を巻き込んだ食農教育活動や、地域貢献活動の活性化に向け、県内外の優良事例に関する情報共有や女性部との連携を進める

（２）環境変化、自然災害に臨機応変に対応する栽培体系等の事例・情報の収集、体制の構築を図る

①急激に変化する自然環境の理解と、変化に対応した栽培体系の模索と先進取組事例について県行政等と共有する

②多発する台風や地震等の自然災害に対して、事例研究等を通じて災害に対する意識醸成とマニュアル（体制）策定を検討する

基本目標３ 組織基盤を強化し地域を活性化する

活動基盤となる組織の維持・発展に向けて魅力ある組織活動実施し、J A・地域農業の発展に貢献する

（１）青壮年部活動の意義を、今一度見つめ直して魅力・活力ある青壮年部へとしていく

①研修等を通じてJ A運営および地域を牽引するリーダー育成の強化を図る

②青壮年部活動の魅力・活動の周知と活動の活性化により新入部員を獲得し、併せて正組合員化を進め、J A経営に参画する土台をつくる

（２）各青壮年部の交流による絆づくりと相互研鑽を図る

①県域の青壮年部交流イベント等の開催を通じ青壮年部・盟友個々の横のつながりを強め、情報共有を進めることで、互いに高め合いJ A・地域の発展を図る

J A 静岡青壮年連盟とは

J A 静岡青壮年連盟は昭和 26 年 11 月 7 日、前身の静岡県農協青年連盟連絡協議会として発足しました。当時、県内の青壮年部組織は 13 郡連・120 組織余りを数え、盟友数も約 6000 人を有していました。

令和 3 年 4 月 1 日現在では、15 組織、1,456 人の盟友数となっています。3 か年計画の着実な実践により組織活性化を図るとともに盟友の加入促進に取り組んでいます。



JA青年組織綱領

我々JA青年組織は、日本農業の担い手としてJAをよりどころに地域農業の振興を図り、JA運動の先駆者として実践する自主的な組織である。

さらに、世界的視野から時代を的確に捉え、誇り高き青年の情熱と協同の力をもって、国民と豊かな食と環境の共有をめざすものである。

このため、JA青年組織の責務として、社会的・政治的自覚を高め、全国盟友の英知と行動力を結集し、次のことに取り組む。

1. われらは、農業を通じて環境・文化・教育の活動を行い、地域社会に貢献する。

JA青年組織は、農業の担い手として地域農業の振興を図るとともに、農業を通じて地域社会において環境・文化・教育の活動を行い、地域に根ざした社会貢献に取り組む。

1. われらは、国民との相互理解を図り、食と農の価値を高める責任ある政策提言を行う。

人間の「いのちと暮らし」の源である食と農の持つ価値を高め、実効性のある運動の展開を通じて、農業者の視点と生活者の視点を合わせ持った責任ある政策提言を行う。

1. われらは、自らがJAの事業運営に積極的に参画し、JA運動の先頭に立つ。

時代を捉え、将来を見据えたJAの発展のため、自らの組織であるJAの事業運営に主体的に参加するとともに、青年農業者の立場から常に新しいJA運動を探求し、実践する。

1. われらは、多くの出会いから生まれる新たな可能性を原動力に、自己を高める。

JA青年組織のネットワークを通じて営農技術の向上を進めるとともに、仲間との交流によって自らの新たな可能性を発見する場をつくり、相互研鑽を図る。

1. われらは、組織活動の実践により盟友の結束力を高め、あすの担い手を育成する。

JA青年組織の活動に参加することによって、個人では得られない達成感や感動を多くの盟友が実感できる機会をつくり、このような価値を次代に継承する人材を育成する。

(注釈)本綱領は、JA全青協設立の経過を踏まえて「鬼怒川5原則」「全国青年統一綱領」の理念を受け継ぎ、創立50周年を契機に現代的な表現に改めるとともに、今後目指すべきJA青年組織の方向性を新たに盛り込んだものである(平成17年3月10日制定)。